



## コネクテッドカー： 次世代自動車の無限な可能性

本シリーズの[最初の記事](#)では、現在から未来の自動車の動向を表す「CASE」というキーワードをご紹介すると共に、これからの技術革新に向けてタイがどのような準備を進めているかについてご紹介した。今回は、最も広範囲な可能性を秘めているであろう「CASE」の最初の文字「C」—コネクテッドカー (connected cars) について取り上げる。

20 世紀に誕生したインターネットは、世界人口の半分以上をつなぎ、現在も拡大し続けている。この技術のおかげで我々の生活は不可逆的に大きく変わった。コンピューター以外のデバイスもインターネット接続が可能となり、人間と接するシステムの一部に加わった。現在の IoT (Internet of Things) の時代において、日常生活がより便利になり、朝から晩まで我々に様々な選択肢が提案されるのは、機器同士で数多くの通信が行われてきたからであるが、それに気付かない人も多いであろう。コネクテッドカーも、いつか我々が今日を振り返ったとき、同じような感覚を引き起こすかもしれない。

コネクテッドカー技術は、簡単に言えば、スマートフォンと同様に、自動車を「スマートで活動的」にする。状況によっては、スマートフォン以上にスマートになる。現在、自動車部品メーカー、大手通信・電子機器メーカーを含め、自動車産業の既存プレーヤーも新規参入プレーヤーも、コネクテッドカーのための部品・インフラ開発を進めており、自動車業界の新たなエコシステムを築き上げようとしている。コネクテッドカーは、高速通信のインターネットとイントラネットを通じて複数のネットワークとつなぎ、将来性のある新しい機能を実現することが期待されている。

以下は、コネクテッドカーの有望な機能の一例である。

- ジオフェンシング (geofencing) : GPS (全地球測位システム)、RFID (無線自動識別装置)、バーチャルマップ及びコネクテッドカーの組



### In This Issue

#### [当事務所のサポート](#)

[www.bakermckenzie.com](http://www.bakermckenzie.com)

#### **Bangkok**

5th, 10th and 21st-25th Floors  
990 Abdulrahim Place  
Rama IV Road, Silom, Bangrak  
Bangkok 10500  
Thailand

み合わせで、コネクテッドカーに対するバーチャル境界を設定することが可能となり、指定地域に自動車が入り出る際の具体的なルールを定められるようになる。ジオフェンシングは、フリート管理、マーケティング、さらには盗難車の追跡等様々な目的に対応できる。

- 緊急通話(「E コール」):コネクテッドカーはより安全な体験を提供することが期待されている。交通事故発生時に、スマート検知器を搭載したコネクテッドカーは、すぐに最寄りの病院又は救急センター、及び保険会社に通知し、適切かつ迅速な対応が取れるよう事故現場や事態の深刻さ等の情報を正確に伝達することが可能になる。
- ドライバー・モニタリング:顔認識技術は、より身近なものとなり、精度が向上し、より高い安全性と利便性を提供できるようになった。運転手を認識する機能を搭載するコネクテッドカーは、自動車のキーを使用することなく運転手を「覚える」ようになるほか、長時間運転時には安全のためドライバーに休憩を勧めてくれる。

コネクテッドカーの技術と機能は間違いなく消費者にとって魅力的でわくわくするものである。一方、様々な法的側面や現地法令動向を見守る必要がある。コネクテッドカーは、「個人化」する傾向があり、大量の情報を収集、転送、交換するため、個人情報保護及びデータセキュリティが主要な課題であるが、それだけには留まらない。

コネクテッドカーは、IoTプラットフォームの情報センターや端末サーバーとリアルタイムで通信を行い、タスクを実行する。国外の企業を介在することが多く、個人情報保護法を含む法律が絡んでくる。運転中複数のデバイスが収集したログ情報には、車両位置、移動ルート、時刻と運転時間、環境と周辺の情報が含まれる可能性があり、慎重な取り扱いが必要となる。

そもそも、収集した情報の所有者、そしてこれを利用できる者は誰なのか(運転手、車両所有者、システム/サービス・プロバイダーなのか)についての議論もあるだろう。収集した情報は、よく分析処理を行えば、車両自体よりも高い価値を持ちさえし得る。また、情報を秘密裡に収集することも問題となりうる。

タイでは、コネクテッドカーに深く関係するIoT関連法規は整備中であるが、この動向が加速化していることを考えると、関連当局は近い将来、米国のIoTセキュリティ法や欧州連合の法令等、海外の法律枠組みを参考にし、その概念を生かしてタイ国内法令の整備を進める可能性がある。

また、コネクテッドカーをマーケティング目的で活用する場合、Eコマース関連の消費者保護やダイレクト・マーケティングの法令も、コネクテッドカーの法整備で重要な役割を果たすであろう。

自動車産業の未来は、CASEによりこれまでにない有望で心躍るものとなるであろう。消費者はよりスマートな自動車でより高い安全性と快適性を享受できよう。その一方で、業界では既存プレーヤーと新規プレーヤーの競争が激化し、多様化するであろう。法律上の知識や主要な課題を認識することで、コネクテッドカーの将来の走行はスムーズな旅となるであろう。

当事務所でも関連法規について見守り、進展がありましたらご案内します。

## Contacts

For further information, please contact:

Suriyong Tungsuwan  
+66 2666 2824 Ext. 4112  
suriyong.tungsuwan  
@bakermckenzie.com

Noriko Sakamoto  
+66 2666 2824 Ext. 4902  
noriko.sakamoto  
@bakermckenzie.com

Benedict Yong  
+66 2666 2824 Ext. 4902  
ben.yong  
@bakermckenzie.com

Varutt Kittichungchit  
+66 2666 2824 Ext. 4334  
varutt.kittichungchit  
@bakermckenzie.com

今回は、CASE の「A」自動運転車両 (autonomous car) の記事をお届けします。

本記事に関するご質問・お問合せがございましたら、以下の連絡先にお気軽にご連絡ください。

## 当事務所のサポート

ベーカーマッケンジーの自動車及び次世代モビリティの専門チームでは、世界的大手メーカー、国際サプライヤー、モビリティ市場への新規参入事業者に、現地・国際市場の案件について助言しています。自動車セクターにおいて、最新技術を開発・活用する最先端の主要なプレーヤーやディスラプターもサポートさせていただいています。

新しい資産取得、新領域への参入、新商品開発、技術、電気化、シェアードモビリティの商機を捉えるための企業再編等においても、私どもの多くの専門分野にわたるアプローチにより、変化するルールへの順応や効率的なリスク対応について、助言させていただいております。グローバル・フューチャー・モビリティ・グループを構成する 300 人以上の企業法務、税務、コンプライアンス、独占禁止・取引競争、環境、及び紛争解決関連の弁護士により、日常のサプライチェーン関連案件から歴史的なディールまで、また、イノベーションにおける法律的・環境的なコストに関する幅広いアドバイスを提供させていただいております。

詳しくは以下にお問い合わせください。

## Baker McKenzie バンコクオフィス日系企業窓口

(日本語、英語、タイ語対応可)

<http://www.japandeskbakermckenziebangkok.com/>

### メンバーご紹介

<http://www.japandeskbakermckenziebangkok.com/our-team-1/>

阪本法子

Noriko Sakamoto

パートナー

Tel No.: +66 2 666 2824 ext. 4902

[noriko.sakamoto@bakermckenzie.com](mailto:noriko.sakamoto@bakermckenzie.com)

ワルット・キッティシユンチット

Varutt Kittichungchit

アソシエイト

Tel No.: +66 2 666 2824 ext. 4334

[varutt.kittichungchit@bakermckenzie.com](mailto:varutt.kittichungchit@bakermckenzie.com)

## ジャパン アドバイザリー グループ (Japan Advisory Group)

Tel: +66 (0) 2666 2824, +66 (0) 2636 2000

Peerapan Tungsuwan (ext.4334)

Suriyong Tungsuwan (ext.4112)

Viroj Piyawattanametha (ext.3061)

Noriko Sakamoto (阪本法子) (ext.4902)

Bulin Sanooj (ext.4051)

Benedict Yong (ext.4902)

Panyavith Preechabhan (ext.4334)

Varutt Kittichungchit (ext.4334)

[peerapan.tungsuwan@bakermckenzie.com](mailto:peerapan.tungsuwan@bakermckenzie.com)

[suriyong.tungsuwan@bakermckenzie.com](mailto:suriyong.tungsuwan@bakermckenzie.com)

[viroj.piyawattanametha@bakermckenzie.com](mailto:viroj.piyawattanametha@bakermckenzie.com)

[noriko.sakamoto@bakermckenzie.com](mailto:noriko.sakamoto@bakermckenzie.com)

[bulin.sanooj@bakermckenzie.com](mailto:bulin.sanooj@bakermckenzie.com)

[ben.yong@bakermckenzie.com](mailto:ben.yong@bakermckenzie.com)

[panyavith.preechabhan@bakermckenzie.com](mailto:panyavith.preechabhan@bakermckenzie.com)

[varutt.kittichungchit@bakermckenzie.com](mailto:varutt.kittichungchit@bakermckenzie.com)

Disclaimer - Baker & McKenzie International is a global law firm with member law firms around the world. In accordance with the common terminology used in professional service organizations, reference to a "partner" means a person who is a partner or equivalent in such a law firm. Similarly, reference to an "office" means an office of any such law firm.

This may qualify as "Attorney Advertising" requiring notice in some jurisdictions. Prior results do not guarantee a similar outcome.